

NO.161

き た や ち

2011年10月19日

河北町立北谷地小学校

確かな学びと成長の日々を

校長 八矢好幸



先日河北中学校の1年生1クラスが、中学校生活を知ってもらうために北谷地小学校を訪問し、6年生と交流しました。北谷地出身者は2名しかいませんでしたが、つい半年前までは小学生だった子どもたちが、こんなに成長するものなのかと感心したところです。話し方、話す内容、合唱のうまさ、身のこなしのたくましさなど、大人になっているなど感じながら見つめていました。毎日の学習や部活動の積み上げが成果として表れたのでしよう。6年生にとってはこんな先輩になりたいというあこがれを

抱いたと同時に、不安なく中学校に進めるような気持ちになったと思います。

実りの秋を迎えた今、学校でも心身の充実に向けた取り組みを行っています。運動会や小中音楽会、マラソン大会といも煮会、そして北小文化祭など多彩なイベントを通して自主性や自立性を育んでいます。でも何よりも教科学習の充実を忘れてはいけません。

小学校教育は、新しい学習指導要領（各学年で学習しなければならないものを示した教育課程の基準）に基づき、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視しています。

これを受け北谷地小学校では、自分の力で問題を解いてみようという意欲を引き出し、自分の考えをしっかりとって、その考えをグループや全体で交流することで深め合い、そして確実にマスターしていくという学習に取り組んでいます。どんな問題に対しても自分の考えをしっかりと持ち、その考えを他の人が理解できるように話をするを大事にしています。さらに、なぜそう考えたかという理由を大事にした授業を行っています。先生方も常に、自分の教え方がこのままでいいのか、今回はどんなかわり方をして子どもたちの考えを引き出そうかと研究会を開いて勉強をしています。



3年生の算数の授業研究会

ただ、自分の考えを持つということはそう簡単なことではありません。多くの経験とともに基礎・基本が身につけていないと考えも浅いものになってしまいます。

学校の学習だけでは身につかない部分は家庭でもしっかりと復習してほしいと願っています。家庭学習の手引きを活用すれば、家庭での学習の仕方もわかると思いますので是非活用ください。

実りの秋、一日一日がしっかりとした学びと成長の日々となるように頑張っていきたいものです。



東北地区の先生方から見ていただいた5年生の授業研究会

収穫祭 ～芋煮会～ ご協力ありがとうございました！

春から育ててきた畑の作物が今年も大きく育ち、実りの秋を迎えました。特に、縦割り班ごとに草取りや水掛など、夏休み中もずっと世話をしてきた里芋が大きくたくさん実りました。



里芋の収穫

10/5(水)は待ちに待った収穫の日。全校生で収穫し、コンテストを行いました。

また、10/12(水)には、お世話をいただいた松田榮一さんと大場一夫さんをお招きし、収穫祭(芋煮会)を行いました。自分たちの手で

育てた大きな里芋と、業務員の鈴木さんが育ててくれたネギをふんだんに使い、芋煮を作りました。

各班、味もそれぞれ、お客様にも一緒に食べていただき、楽しい芋煮会となりました。

また、会食後の感謝のセレモニーでは、里芋収穫コンテストの結果が発表されました。結果は下記の通りです。

大きい葉っぱ部門	4班
小さい葉っぱ部門	7班
長いくき部門	7班
短いくき部門	7班
収穫した里芋の重さ部門	3班
畑のきれいさ部門	9班

班長を中心とした取り組みに拍手を送ります。



これからの予定	
月/日(曜)	行事等
10/29(土)	北小文化祭(弁当) 8:35~ 地区の皆様も、どうぞお誘い合わせの上ご来校ください。
11/1(火)	創立記念式(朝会)
3(木)	(祝)文化の日 地区の文化祭 5年生「大黒舞」等 岩木子ども御神楽 出演予定
10(木)	西学研研究部会 授業4時限 弁当日
15(火)	子ども文庫
16(水)	実践交流会 授業4時限 (1年は5時限)
17(木)	P.T.A講演会 臨時総会
29(火)	移動お話し会
30(水)	5年校外学習

児童代表の言葉

今日は、この収穫祭に来ていただき、本当にありがとうございました。里芋をここまで育てておいしく食べられたのは、大場さん、松田さんのおかげです。大場さんは、お金の面で援助してくれました。そのおかげでたくさん材料で芋煮を作ることができました。松田さんは、里芋がしっかり育つように土を耕してくれました。そのおかげで、こんなによい里芋ができました。本当にありがとうございました。

ぼくは、この里芋作りを通して、三つのことを学びました。一つは食べ物の大切さです。里芋を作るのにこれほど手間暇がかかって、ぼくたちが食べるのですから、絶対残してはいけないと思いました。二つめは、仲間と協力することです。



こんなにおいしい里芋を作るには、やっぱり仲間と協力しあわないと作れないんだと実感しました。三つめは、感謝する気持ちです。食べ物や栽培にかかわっている方々全員に感謝するということを忘れないでいきたいです。

今までぼくたちのために準備や手伝いをしていただき、本当にありがとうございました。

※本活動は、ふるさと保全事業として援助していただいています。



6年 永井 幹久君